

資料

第6回都市基盤整備分科会資料

2006年3月27日

議事次第

■ 分科会は合計2時間で行います

次第	時間	内容
1 開会	5分	①挨拶 ②出欠確認(出欠表の記入) ③前回の検討内容(議事録・整理表)の確認
2 検討の進め方	10分	①検討の進め方に関する説明 ②本日の目標確認
3 話し合い	90分	
4 とりまとめ	10分	
5 閉会	5分	①次回の内容 ②次回の日程 ③意見・質問 ④最終総括(会長)

本日の分科会の目的と成果物

- 前回議論した宇都宮市の都市づくり(都市基盤整備)の基本理念を振り返ってみます
- 重点課題を絞り込んでみます
- 分野横断的な課題を抽出してみます
- 宇都宮市の都市構造を考えてみます

本日の分科会の成果物

重点課題表

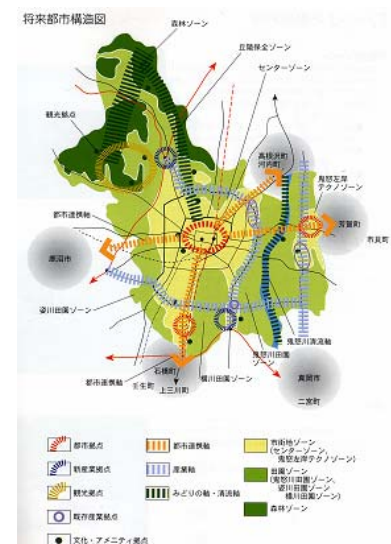
課題	背景・理由	やるべきこと

都市づくりの基本理念

都市づくりの基本理念

都市づくりの基本原則

都市構造

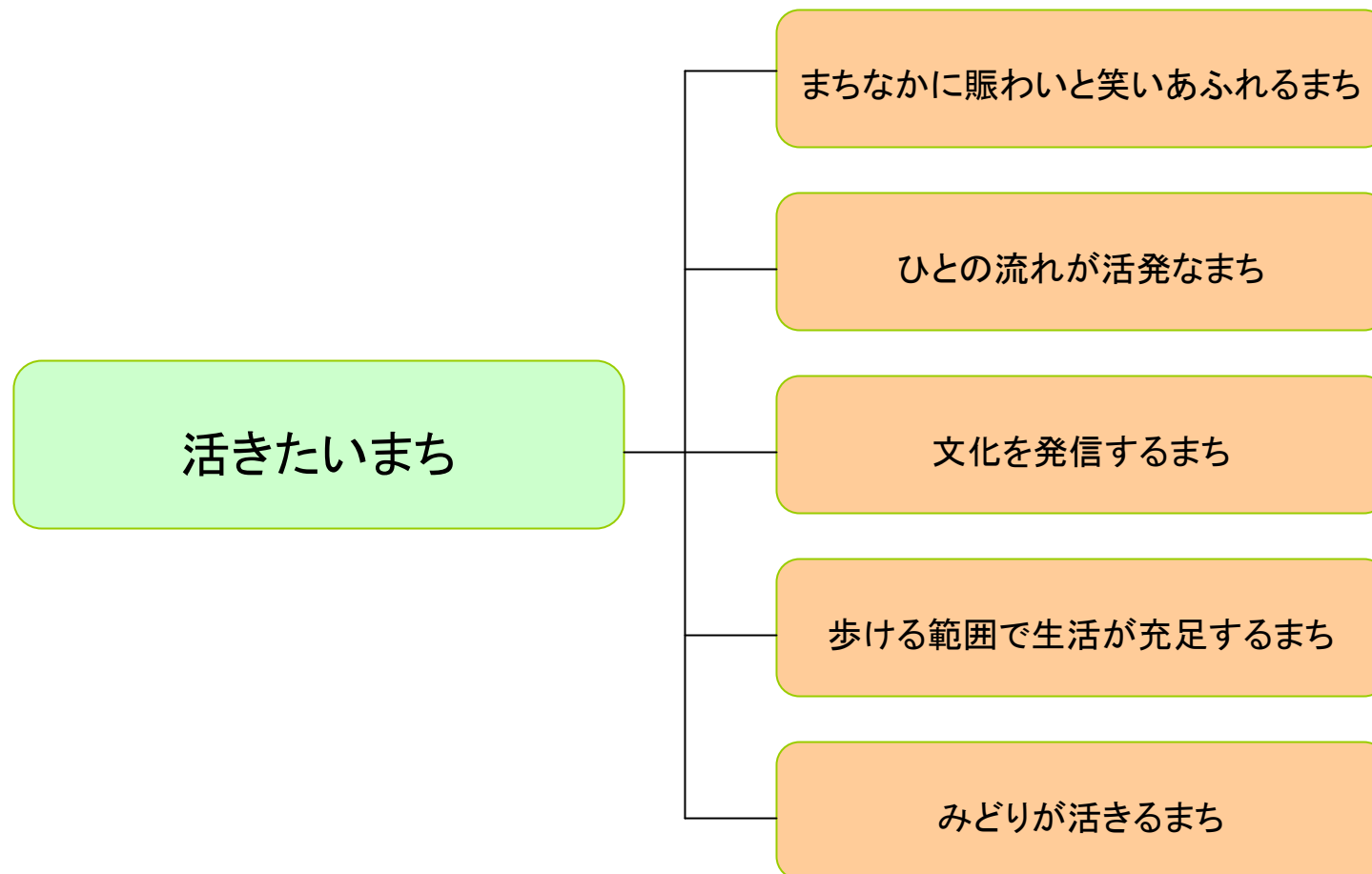


都市づくり（都市基盤整備）の基本理念（第5回分科会）

これから15年後に向けての宇都宮市の都市づくり（都市基盤整備）の基本理念と方向

めざす都市像

都市基盤整備の基本方向



都市基盤分野の重点課題

課題	背景・理由	やるべきこと
JR駅周辺と東武駅周辺のまちの顔の形成	● 市外からの玄関 ● 中心市街地の活性化 ● 観光客への魅力づけ	● 西口駅前広場の景観、構造、動線の見直し（田川まで含めて）
		● オリオン通りの再生 ● ばんばの復活、笑いを提供する舞台の整備
楽しく乗れる公共交通への再編	● バスに魅力がない ● 後期高齢者の増加 ● バス・鉄道利用者の減少	● JR新駅の検討、JRと東武の乗換駅の新設検討 ● LRT等の検討（是非も含めて） ● バスサービスの改善（エリア料金制、乗換割引、接客の改善、など）
地域のみどりや資源を活かしたまちづくりの推進	● 既存樹木の再生は不可能 ● 歴史資源の活用、PR、教育	● 八幡山公園の再整備 ● 蔵のまちの形成 ● 大谷の観光地としての再生 ● 釜川周辺の再整備
魅力ある生活拠点の形成	● 地域の顔の形成 ● 地域生活の中心核の形成 ● 市町村合併をにらんだ整備	● 東、西、南、北拠点の整備
（市民生活におけるITの積極的活用）	● 長寿社会におけるサービスの提供 * ITについては基盤整備の時代は終わり活用推進が課題。都市基盤分野で1項目として取り上げる意味は薄い。	● 地域情報の発信 ● 教育、文化での活用

分野横断的な課題

- 他分科会と調整が必要な事項があればあげてください。（都市自治・生活環境整備・教育文化振興・産業振興・市民福祉）

項目	内容	分科会
観光拠点の整備、 充実	・観光拠点の位置づけ	産業部会
都市景観の向上	・どう書き分けるか	生活環境整備

例）産業振興分野の重点課題（産業振興分科会）

課題	背景・理由	やるべきこと
安全・安心な食品供給基地の整備	●健康食品ニーズの高まり、食の安全ニーズの高まり、外国産食品との競争の激化への対応（差別化）が必要になっている ●宇都宮市には一次産業基盤がフルラインで整っているため強みを生かせる	●食育のす維新、学校給食の見直し（地元食材の活用、地産地消の推進）
新しい観光業の創出	●優良な観光資源を持っている（おいしい水、豊かな緑・自然、大谷石等）が活用されていない ●癒しが求められる社会においてそれらの資源を活用できる	●歴史文化資源の再評価、観光業者のPRの工夫 ●大谷石までのアクセス改善（東京からの直結等） ●大谷周辺の資源のシナジー活用（ロマンチック村、グリーンツーリズム、ハングライダー等） ●道路・地域のネーミング改善
企業家精神が欠如している現状を打破し、ベンチャー企業の育成を図る	●既存産業が成熟化する中で、新しい宇都宮市を牽引するニュービジネスが期待されている ●現状では、産業教育が十分でないため企業家精神が市の若者に育っていない ●これらの現状を克服する必要がある	●産学連携事業の拡大 ●キャリア教育等の産業教育の充実 ●行政による起業家支援（インキュベーターとして）
若年労働力不足時代への対応 →教育文化、市民福祉	●少子高齢化、ニートの増加等により若年労働力が不足すると考えられるため、若年労働力を確保育成する必要がある	●外国人労働者の適切な活用 ●高齢者人材の活用 ●育児環境の整備 ●若者に魅力的な職場づくり
中心市街地空洞化への対応 →都市基盤整備、生活環境	●若者のスポット喪失や高い地価、駐車場不足や郊外への大規模商業施設の立地等により中心市街地が空洞化しているが、市民からの中心市街地活性化ニーズは強く、取組むべき	●医療施設・高齢者用マンションの誘致 ●魅力ある拠点づくり

参考)SWOT分析結果

強み

- ①幹線道路(3環状12放射)の充実
- ②郊外に緑豊かな田園、山林が残っている
- ③鬼怒川、田川、釜川が存在
- ④大谷石を使った建築物が多い
- ⑤東京からのアクセスが良好

弱み(問題)

- ①中心市街地に空店舗が目立つ
- ②市内公共交通体系が不十分、不適切
- ③JR西口駅前が殺風景、景観が悪い
- ④交通事故が多い、安全でない
- ⑤ユニバーサルデザインの街づくりになっていない

機会

- 大谷石倉の活用・再生
- 清住町通りの再生・倉のまち
- 宇都宮城の活用
- 東口の再生
- LRT導入による美しい街づくり
- 市中心部人口流入
- 妖精美術館の建立
- 上野デパート跡地の具体的活用
- 北関東自動車道の開通
- 県と市の行政上の協力体制
- 自動車の減少
- 国際化が進む
- IT技術の進展
- 環境問題の顕在化

脅威

- 危機感不足
- 借金増加
- 住民の不公平感
- 公共投資の改革のおくれ
- 金利上昇
- 競場跡地の利用
- 財政問題
- 税収減
- 中心街に住む人の高齢化
- 人口減少
- 郊外店舗の空地化
- ベッタタウンのスラム化
- 環境破壊
- 農業人口減少

重点課題検討表(第4回分科会)

強みで機会を活かすための課題

- ◇大谷石を使った建築物が多い強みを利用し、大谷石倉の活用再生をし、石蔵のイメージを定着させる(ミニ美術館(アマチュア画家の発表の場に)、区画整理に合せ清住通の倉のまち再生、新築物件に大谷石活用を推奨)
- ◇充実した道路を活用した都心部の歩行空間整備
- ◇宇都宮城を活用し、物産店を作る
- ◇競馬場跡地を総合グラウンド(遊園地とプールを作り、大人と子供が一日楽しめる場に)

弱みを強化して機会を逃さないための課題

- ◇上野デパート跡地≡高齡者施設対応と集客力あるテナント
- ◇オリオン通り等、品格のある専門店を呼びたい
- ◇東口駅前に緑地を残す
- ◇高齡社会にやさしく対応した中心部の開発、マンション誘導、美しいまちづくりの好機
- ◇JR西口周辺の緑化(市街地再開発にあわせ)
- ◇LRT導入により公共交通網の再生、トランジットモールの実現
- ◇安全、安心な街(歩いて楽しい街、車型社会からの脱却)
- ◇中心市街地への魅力的な中高一貫校の整備と子育て世帯の誘導

強みで脅威を克服するための課題

- ◇財政問題を解決するためのコンパクトな市街地形成(緑の保全)
- ◇郊外地区を中心とした自然保護、郊外大規模SCのこれ以上の抑制
- ◇既にある3環状放射に橋を加え最小の投資に留め、高齡社会に備える
- ◇駅周辺における首都圏在住団塊の世代の住宅誘導
- ◇東京からのアクセスが良い、郊外の緑の豊かさをアピールし人口流出を止める

弱みを強化して最悪の事態を招かないための課題

- ◇ユニバーサルデザインの街づくり
- ◇高齡化社会に対応した福祉・医療施設の公共交通軸上の整備
- ◇車線減少による渋滞増にならないため、LRTは検討しなす
- ◇市内公共体系が不十分(交通事故が多い)
- ◇中心市街地の空店舗(街づくり三法が改正されても今の商店街で客を呼べるか)



- ・人が生活し、賑わう中心市街地の形成
- ・大谷石や石倉を生かした個性的、文化的な美しいまちなみの形成
- ・郊外の緑の保全、コンパクトな市街地の形成
- ・高齡化に備えた公共交通体系の再編成
- ・ユニバーサルデザインの街づくり

将来都市構造

- これから15年後のめざす都市構造を考えてみよう。何を変えて、何を継続していくのでしょうか。

1. 都市拠点

- ・機能を集約して配置し、利便性を高める

①中心市街地

- ・現在と同程度

②生活拐点

- ・現在の宇都宮市は45万人です。仮にですが、区役所を想定すると3～4カ所に地域拠点を整備するのが望ましいかと思います。どこに配置したらいいでしょうか。

③産業拠点

- ・知的技術開発拠点、物流拠点のような読み替えも必要かと思います。

④文化拠点、観光交流拠点など

- ・戦略的に育成をしようという場所はありませんか。

2. 都市軸、産業軸、緑の環境軸

- ・拠点間を結び交流を広げる軸です。例えば、軸を広く捉え、グリーンベルトのような発想もできるかもしれません。

将来都市構造図

